

## 第68回こどもの読書週間(4月23日～5月12日)

子どもたちにもっと本を！との願いから「こどもの読書週間」は1959年(昭和34年)に始まりました。もともとは5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間(5月1日～14日)でしたが、2000年より今の4月23日(世界本の日・子ども読書の日)～5月12日になりました。

今回の標語は「**ことばがきみのはねになる**」。本を読むことで磨かれた感性を持った豊かな人生を送ってほしい、感受性豊かな今の時期こそ、1冊でも多く本を読んでほしいと心から願っています。

室蘭市図書館をはじめ、道内各図書館でこどもの読書週間にまつわるイベントが開催されています。ちょっと、近くの図書館をのぞいてみては、いかがでしょうか…。

### 5月の新着予定本(全35冊)



**謎の香りはパン屋から/土屋うさぎ/宝島社**  
クロワッサン、フランスパン、シナモンロール、チョコココネ、カレーパン…焼きたてのパンの香りが広がるパン屋を舞台とした〈日常の謎〉ミステリー!

2025年第23回『このミステリーがすごい!』大賞受賞作



**大谷のバットはいくら? スポーツを支える道具とひとびとの物語/熊崎敬/柏書房**

大谷翔平はなぜ米 Shea5位のバットを使うのか? 羽生結弦は「軽いスケート靴の時代」をつくった? 北口榛花が空気抵抗の大きいやりを選ぶ理由とは? 「Number」人気連載を書籍化。知られざるスポーツ用品の“値段”と“秘密”を大解剖。空前の《お金×スポーツ》本。



**今日未明/辻堂ゆめ/徳間書店**

新聞の片隅にしか載らない、小さな事件。その裏には、報道されない真相がある。まだ引き返せる。あなたがニュースになる前に。デビュー10周年記念作品。大藪賞作家が描く慟哭の犯罪ドラマ。



**テミスの不確かな法廷/直島翔/KADOKAWA**

任官七年目の裁判官、安堂清春は、東京からY地裁に赴任して半年。幼い頃、発達障害と診断され、主治医のアドバイスで、自身の特性と向き合ってきた。市長候補が襲われた詐欺未遂と傷害事件、ほほ笑みながら夫殺害を告白する女性教師、娘は誰かに殺されたと主張する父親。さまざまな事件と人との出会いを通じて、安堂は裁判官として、そしてひとりの人間として成長していく。



**しっぽのカルテ/村山由佳/集英社**

信州の美しい木立のなかに佇む「エルザ動物クリニック」。凄腕だけれどポンコツな院長と働き者のスタッフが集うこの病院では、動物も人も、ゆっくり息を吹き返す。それぞれの人生と共にある、かけがえのない命をいかに救い、いかに看取るのか。生きとし生けるすべての命への愛しさがあふれる感涙の動物病院物語。



**5秒日記/古賀及子/ホーム社**

『日記は1日のことをまるまる書こうとせず5秒のことを200字かけて書くと良い』そんなつぶやきから生まれた、「北欧、暮らしの道具店」の人気連載がついに書籍化。日常のささいな瞬間のきらめきがぎゅっと詰まった珠玉の日記エッセイ。



### その他

※下記の赤字の本は、今年度の青少年読書感想文全国コンクール課題図書

- ・ノアハム・ガーデンズの家/パネロピ・ライヴリー
- ・謎の香りはパン屋から(2)/土屋うさぎ
- ・イン・ザ・メガチャーチ/朝井リョウ(2026 本屋大賞受賞)
- ・僕たちにはキラキラ生きる義務などない/山田ルイ53世
- ・スピノザの診察室/夏川草介・エピクロスの処方箋/夏川草介
- ・ぬすびと/寺地はるな・ゴールデンカムイ(1)～(5)/野田サトル
- ・水族館飼育員のキッカイな日常/なんかの菌
- ・こつこつ、オムレツ/太田忠司・温泉放浪記/森まゆみ
- ・帰りに牛乳買ってきて 女ふたり暮らし、ただいま20年目。/はらだ有彩・おにうめ/フリイラくん
- ・償い 綾瀬女子高校生コンクリート詰め殺人事件 6人の加害少年を追って/山崎裕侍
- ・生きとるわ/又吉直樹・誓いの証言/柚月裕子
- ・おい点P、動くんじゃねえ!ニガテ民のための算数と数学の本/とけいまわり etc

### 4月末クラス別利用状況

クラス 学年	1組	2組	3組	4組	職員	計	総計
1年	3	0	0	0		3	19
2年	3	1	1	0		5	
3年	1	0	0	0		1	
職員					10	10	

